

第3回学生制作する音楽録音コンテスト報告ジャーナル

日本オーディオ協会 音の日委員会 副委員長
穴澤 健明

1. はじめに

一般社団法人日本オーディオ協会では、我が国で音楽録音教育やオーディオ教育に関わる専門の教育機関が設立される以前より、音楽録音教育やオーディオ教育の重要性を認識し、その啓発に取り組んでいます。その一例を上げますと、1980年代末までに、欧米の教育機関の活動状況などを現地で学んだ学生による紹介記事などを多数「JASジャーナル」（日本オーディオ協会の技術機関誌）に掲載し、啓発に努めてきました。また、日本オーディオ協会設立者の一人、音響工学の権威でもあった故伊藤毅先生からも「JASジャーナル」（1991年7月号）誌上において“芸術的にも高水準で技術的にも高品質の録音音楽を制作するための要員養成の重要性”に関する指摘に基づき、録音技術者教育の充実にも努めてきました。このような努力もあり、我が国ではその後多くの教育機関が設立されました。

音楽録音の本質は今でも変わりませんが、最近になって録音技術に関する周辺状況に大きな変化が訪れています。一昔前にはかなり大がかりな設備を要した「録音」は、最近の小型高性能のデジタル録音機器とパソコンを対象とした録音再生ツールソフトウェアの普及発展により、学生や若者たちにも比較的高音質の録音が容易に実施できる環境が整ってきています。

このような状況に鑑み、日本オーディオ協会は、オーディオ文化を広め、楽しさと人間性にあふれた社会を創造するべく、学生の皆さんの柔軟な発想を生かした魅力ある「音楽録音作品」の登場を期待し「学生制作する音楽録音作品コンテスト」を、2014年と2015年に開催しました。その応募作品の概要を表1に示します。

この第1回と第2回のコンテストを受けて、昨年第3回学生制作する音楽録音コンテストを開催しました。その概要を以下に報告させていただきます。

表1

		第1回	第2回
チャンネル 数別作品 数内訳	5.1チャンネル	6	5
	5.0チャンネル	1	0
	4.1チャンネル	1	0
	2チャンネル	9	11
教育機関 別作品数 内訳	国内の専門の大学又は学科の学生の応募作品	13	9
	海外の専門の大学又は学科の学生の応募作品	0	1
	一般大学生（専門の学科ではない大学の学生）	2	0
	専門学校生	2	6
応募作品	総数	17	16

・第2回の受賞者及び受賞作品については本誌2016年1月号（JAS Journal 2016 Vol.56 No.1）を参照願います。

2. 第3回学生の制作する録音コンテストの概要

第3回のコンテストの要綱を以下に示す。

1. 主催：一般社団法人日本オーディオ協会

共催：Audio Engineering Society 日本学生支部

協賛：ソニー株式会社、ティアック株式会社、株式会社ヤマハミュージックジャパン

協力：Audio Engineering Society 日本支部

2. コンテストの概要

応募要項に示す形で応募された作品について審査委員会にて厳格な審査を行い、2015年度「音の日」に表彰

3. 応募資格：「音楽録音に興味を持つ学生の個人またはグループ」（高校以上の学生）

4. 応募期間等

- ・受付開始日：2016年8月8日（金）
- ・応募締切日：2016年10月14日（金）必着

5. 応募作品制作期間：2016年1月1日以降制作の作品

6. 審査員構成（審査委員氏名と所属先、敬称略、順不同）

千葉精一：所属 日本オーディオ協会

亀川 徹：所属 東京芸術大学音楽学部

長江和哉：所属 名古屋芸術大学音楽学部

馬場哲夫：所属 尚美学園大学芸術情報学部

我妻 拓：所属 日本工学院専門学校

深田 晃：所属 dream window inc.

中村 寛：所属 (株) WOWOW、Audio Engineering Society 日本支部

高松重治：所属 日本オーディオ協会

3. 第3回学生の制作する音楽録音コンテストの応募作品数と受賞作品

14作品の応募がありその内訳は以下に示す通りであった。

- ・チャンネル数別作品数内訳

5.1チャンネル	3作品
2チャンネル	11作品
- ・教育機関別作品数内訳

国内の専門の大学又は学科の学生の応募作品	9件
海外の専門の大学又は学科の学生の応募作品	0件
一般大学生（専門の学科ではない大学の学生）	0件
専門学校生	5件

以上応募総数14作品について2016年11月18日夕方と11月25日の午前中に東京芸術大学北千住校舎内の録音スタジオモニタールームをお借りし、前記の審査員諸氏による厳正なる試聴および審査行ないました。

審査については前回同様全審査委員に評価点（100点満点）をつけていただいた。その内訳は、企画力（録音制作企画書の出来など20点満点、応募作品の音楽性（30点満点）、録音技術力（50点満点）とし、審査委員全員の得点集計を行い、審査委員の全員の合意により以下の3名の作品の受賞を決定した。参考のため各審査委員よりいただいた受賞作品に対していただいたコメントも併記させていただきます。

第3回学生の制作する音楽録音コンテスト受賞作品（2016年）

■最優秀賞 弓立 寛子（ユダテヒロコ）さん

- ・洗足学園音楽大学音楽音響デザイン録音コース3年
- ・作品名「優しい朝に君と」2ch48kHz 24bit

○審査委員のコメントより

- ・ベースが少し弱い、パーカッションが少し大きいなど惜しい点があるものの全体に素晴らしい出来上がりである。
- ・客観性を重視したようで音楽性にすぐれていた。
- ・企画書の書き方を改善すると評点をもっと上がったように思う。
- ・全体的に素晴らしい出来であった。
- ・曲の面白さをうまくまとめてミキシングされている。
- ・ストリングスの扱いがもっと大胆だと良かった。
- ・全体的にバランスは良いしボーカルも聴きやすい。
- ・ポップで楽しい楽曲で、聴きやすい楽曲に仕上がっている。
- ・企画意図に沿った演奏で良くまとまっている。

■優秀企画賞 中村 涼真（ナカムラリョウマ）さん

- ・洗足学園音楽大学音楽音響デザイン録音コース3年
- ・作品名「よじ登る植物～フルーツ・ピアノ・チェロのための～」2ch 48kHz 24bit

○審査委員のコメントより

- ・技術的な工夫を行うというチャレンジが良かった。
- ・企画意図、研究目的がはっきりしていて良かった。
- ・音楽性が素晴らしかった。録音レベルをもう少し高くするとさらに良くなると思った。
- ・残響付加の試みは評価できるが折角空間を作る良さが作品にもっと生かされると良かった。
- ・企画意図(研究目的)が明快で評価できる。
- ・サラウンドにしても良かったのではないかとと思う。
- ・一般と異なるリバーブの扱いを行おうと思ったアイデアが素晴らしい。

■優秀音楽作品賞 松本 日向子（マツモトヒナコ）さん

- ・東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科4年
- ・作品名「Strasbourg St.Denis」6(5.1)ch 48kHz 24bit

○審査委員のコメントより

- ・ドラムスが他の楽器にかぶっているため楽器間の一体感が薄くなっているところが惜しい。
- ・もう少し客観的な態度で音作りを行うとさらに良い作品になったと思う。
- ・サラウンドによる表現は素晴らしいと思った。
- ・サラウンドを生かせるアレンジや楽器配置ができると良かった。
- ・企画意図が録音制作企画書にわかりやすく書かれていた。
- ・やや広いクラブで聴いている感じで、演奏がうまいので安心して聴けた。
- ・サラウンド作品で企画意図は明確であるが2chステレオでも表現できる内容の様に感じた。

4. おわりに

本コンテストの受賞作品は、2016年12月6日に目黒雅叙園で開催された学生の制作する音楽録音コンテストの授賞式で発表され、その後のシンポジウムには、受賞者と審査委員諸氏に御参加いただき、受賞作品を鑑賞しつつ意見交換を行った。



シンポジウムでは活発な意見交換が行われた

学生の制作する音楽録音コンテストも第3回を数え、熱心な学生の音楽作品の応募ばかりでなく、新しい技術的な試みに挑む学生も登場するまでになってきています。

ここで当初よりの目標であった“芸術的にも高水準で技術的にも高品質の録音音楽を制作するための要員養成の重要性”を再認識し、健全なオーディオ愛好家の育成を目標として、次回のコンテストを具体化してゆく必要があると考えられます。

そのために次回からは音楽録音コンテストばかりでなく、学生によるハイファイオーディオ技術コンテストも取り入れて行ければと思っております。